



## 今年6月の米雇用統計＝2カ月連続の改善

### ◆非農業部門就業者数、過去最大の増加数

米労働省が7月2日発表した6月の雇用統計（季節調整済み）によると、景気動向を反映する非農業部門就業者数は前月比480万人増加と、統計でさかのぼれる1939年以降で最大の伸びを更新した。活動再開でレストランが148万人、ホテルは23万8000人それぞれ増え、全体を押し上げた。市場予想は300万増加。

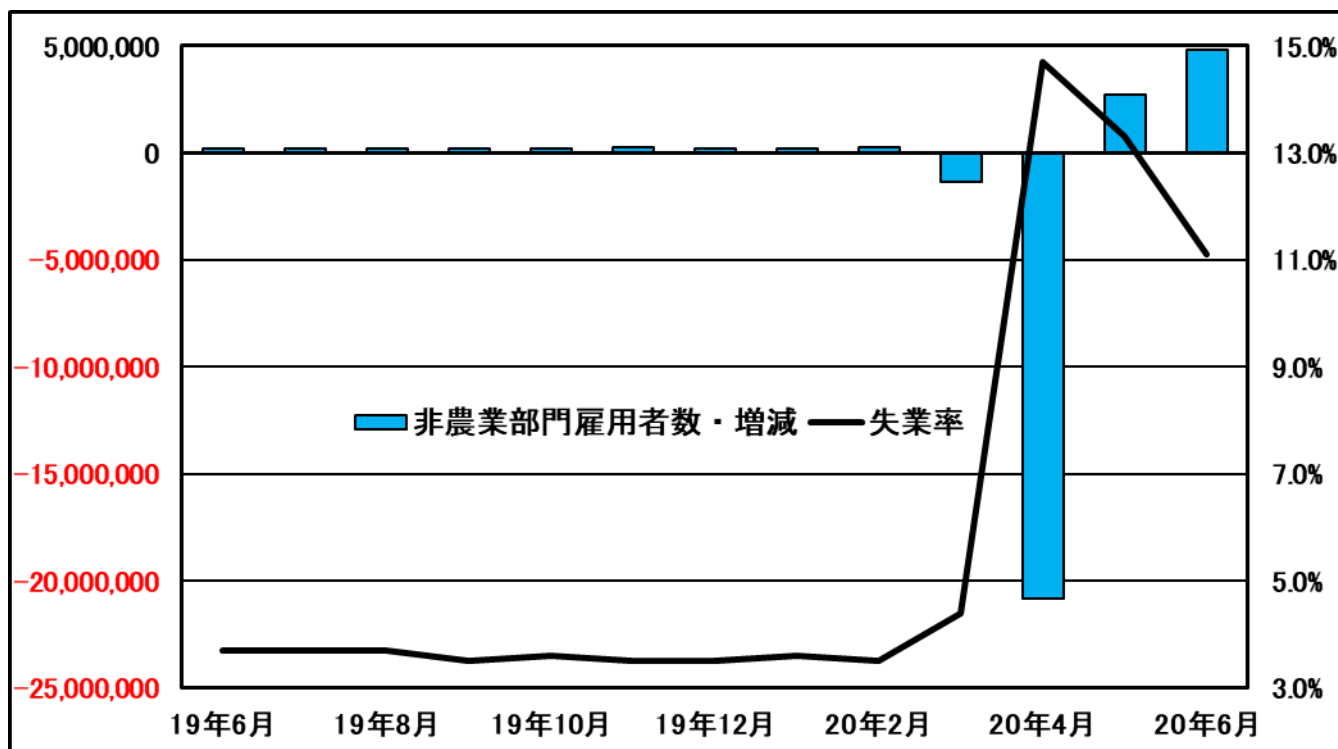
しかし、今回の統計には、フロリダやテキサスといった南部・西部州で6月になって感染者が急増し、バーなどが再び営業停止に追い込まれた影響は含まれていない。また、失業給付を受け続けている人は6月20日までの1週間で1929万人と前週から約6万人の増加に転じた。新型コロナウイルス感染「第2波」が広がれば企業破綻が増え、一時解雇から恒久解雇になる労働者が膨らむ恐れがある。

### ◆失業率、悪化歯止めも高水準

6月の失業率は11.1%と、経済活動の再開に伴い、戦後最悪だった4月から2カ月連続で改善した。市場予想（12.3%）より良い数字で、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた雇用の深刻な悪化に歯止めがかかった。ただ、リーマン・ショック後の2009年10月の10.0%や、第2次オイルショックの影響を受けた1982年12月の10.8%を依然大きく上回る水準で、雇用の回復ペースは不透明だ。

失業率は前月から2.2ポイント低下。失業者全体のうちレイオフ（一時解雇）扱いだった人は約7割から6割に減り、労働者の職場復帰が進んだことを裏付けた。トランプ米大統領は「景気が非常に力強く回復している証拠だ」と強調した。

失業率は4月に14.7%と1930年代の大恐慌以来の水準に悪化。景気に回復兆候が見られるが、米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長は「（感染リスクに）安心感が広がるまで、完全な回復はありそうもない」と警告している。



第一商品株式会社 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町9番1号 神泉プレイスビル フューチャーズ・24

このレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので投資勧誘を意図するものではありません。投資の最終的な決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い致します。レポートに記載の内容等は作成時点のものであり、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく修正、変更されることがあります。商品先物取引業者 日本商品先物取引協会会員  
当社お客様相談窓口 0120-770-266 (平日 8:30~17:00) 日本商品先物取引協会相談センター03-3664-6243。

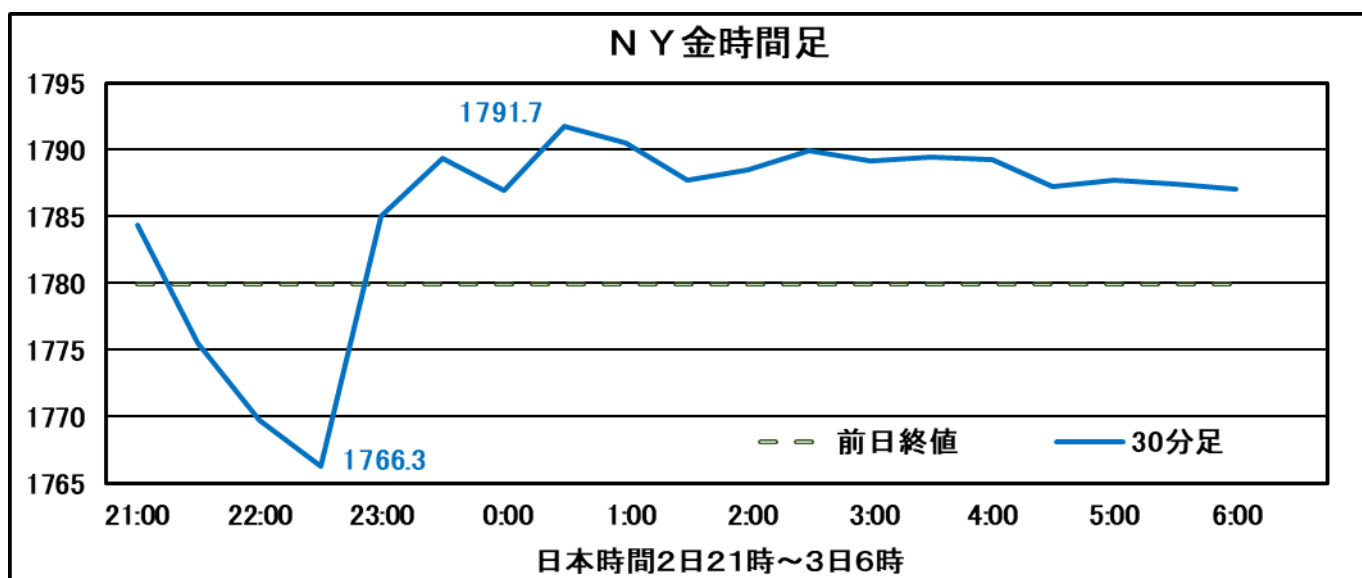
## ◆NY金は反発、米雇用統計発表後に下落する場面

週末7月2日のニューヨーク商品取引所（COMEX）の金相場は、6月の米雇用統計の発表後に下落したものの、安値拾いの買いなどが入り反発。中心限月期近8月限の清算値（終値に相当）は前日比10.10ドル（0.57%）高の1790.00ドル。

米労働省が発表した6月の雇用統計は失業率が2カ月連続で改善した。非農業部門就業者数は前月比480万人増と、市場予想を上回った。これを受けて、雇用の回復ペースへの期待が広がり投資家のリスク回避姿勢が後退。安全資産としての金は売りが先行した。対ユーロでのドル高もドル建てで取引される金の圧迫材料となり、期近8月限は1766.30ドルまで下落。

ただ、安値を付けた後は、先高感からの安値拾いの買い戻しやチャート絡みの買いが入り、午後にかけてプラス圏に浮上、1791.70ドルの高値を付けた。

6月の米非農業部門就業者数は480万人増加となり、記録を取り始めた1939年以来最大の増加となった。ED&Fマン・キャピタル・マーケッツのアナリスト、エドワード・メイ氏は「通常、これらの非常に強い統計ではドル指数が上昇するはずだが、しなかった。経済はまだ危機を脱したわけではないと依然として懸念されている」と話した。



## ◆NYダウ平均は反発、米雇用統計を好感

7月2日のニューヨーク株式相場は、予想を上回る改善を示した6月の米雇用統計を好感し反発。優良株で構成するダウ工業株30種平均は前日終値比92.39ドル高の2万5827.36ドルで終了した。上げ幅は一時400ドルを超えたが、新型コロナウイルスの感染再拡大への懸念は根強く、上値は重かった。

米国では、南部や西部を中心に新型コロナの感染者や入院者数が再び増加し、経済活動再開の動きを中断する州も出ている。ニューヨーク市は、店内飲食の再開を遅らせた。市場では「ニューヨークなど北東部に経済活動の再開を遅らせる動きが波及し、警戒感が強まっている」との声が聞かれた。